商品選択は価格より「成分」

Dgs利用女性のかぜ薬購入意識調査

ウィルベース

店舗でのOTC医薬品販売接客のデジタル化・標準化を強力に推進するアプリ「Dカウンセラー」など、小売業のマーケティングや販促活動を支援する各種システムを提供するウィルベース（東京中央区）は、ドラッグストアをよく利用するという女性に、OTC医薬品選定に関する意識や販売状況を調査した。このうち、かぜ薬を購入する際には「店舗に行ってから自分で商品を選ぶ」という人が多く、「含まれている成分」を最も重視していた。また、従業員にかぜ薬を探していると相談した際に、大半の店舗では有資格者が対応し、適切なヒアリングや具体的な商品提案が行われているという結果であった。

同社では、これまでも小売業各社の顧客満足度調査を行ってきたが、今回はセルフメディケーション推進のカギとなるOTC医薬品の購入や販売状況について、昨年8～9月にかけて、ドラッグストアをよく利用するという全国の20～50代の女性226人、ドラッグストア226店舗（40企業・チェーン）を対象に調査した。

ドラッグストアにある数多くの「かぜ薬」の中から、消費者はどのように商品を選んでいるかでは、「あらかじめ商品を決めている」は15％、「店舗に行ってから自分で商品を選んでいる」が44％「従業員（薬剤師、登録販売者）と相談して商品を選んでいる」が41％であった。

かぜ薬の購入理由では、最も多かったのが「従業員（薬剤師、登録販売者）に薦められたから」の39％で、続いて「以前に使用したことがあるから」32％、「広告やCMで見たから」21％、「家族、知人から薦められたから」8％となった。購入の際に最も重視することでは、「含まれている成分（眠くなりにくい等を含む）」が58％と最も多く、以下は「価格」21％、「メーカー名や商品名」16％「服用回数」5％と続いた。

ドラッグストアにおけるかぜ薬の販売対応状況だが、かぜ薬を売場で探していた時に、従業員からの声かけがあったかを聞くと、「2分以内に声かけがあった」14％「周りに従業員がおらず、2分以内に声かけがなかった」58％、「周りに従業員がいたが、2分以内に声かけがなかった」28％となった。

また、「かぜ薬を探している」と従業員に聞いた時の対応については、「有資格者（薬剤師または登録販売者）が対応し、使用者、症状、既往歴、アレルギーのヒアリングや具体的な商品の提案があった（親身になった丁寧な接客だった）」という人が57％と最も多かった。同じく有資格者が対応し、具体的な商品の提案もあったものの、淡々とした接客だったという人が25％、有資格者が対応したものの、ヒアリングに不備があったり具体的な商品提案がなかったという人が18％であった。

接客に満足も、より深い説明望む

かぜ薬の接客時に、従業員は何をもとに説明したか（複数選択）では、「商品パッケージ」が60％と最も多く、「売場に設置されたボード、POP、リーフレット」が9％、「口頭のみ（特に提示なし）」が30％ならない状態も見受けられる。また、販売者側は来店者への説明時に、症状のヒアリングや商品提案は実施しているが、パッケージを用いた説明や口頭のみの簡易な説明にとどまっており、数多くのかぜ薬の中で、なぜこの商品がお薦めなのかの具体的な説明や提案に苦慮している様子もうかがえる」と指摘。

そして「コロナ禍の中で、なるべく短時間で買い物を済ませたいというニーズはあるものの、消費者はかぜ薬を含めたOTC医薬品の購入に際して専門的なアドバイスを求めている一方で、薬剤師や登録販売者などの専門スタッフの不足もあり、販売者側がその期待に必ずしも応えられていない状況ともいえる。セルフメディケーション推進のカギとなる消費者によるOTC医薬品の購入促進には、ドラッグストア等の販売者の専門的なアドバイスをタイムリーかつ効率的に行う機会を増やすことが必要と考える」としている。

OTC医薬品の購入時に専門的なアドバイスを期待している消費者は多い

ウイルスの不活化効果を実証

高濃度カテキンEGCg水溶液

HPG

緑茶成分カテキン含有製品の開発および製造をはじめ、食品・化粧品等に使用される各種素材の研究開発を手がけるHPG（東京中央区）は、同社開発の保存安定性に優れた高濃度カテキン「EGCg（エピガロカテキンガレート）」の水溶液化技術が、インフルエンザや新型コロナウイルス等、各種ウイルスの不活化に効果のあることが検証により確認されたことを発表した。

緑茶に含まれるカテキンの一種であるEGCgは、これまでもウイルスに対する不活化効果を示すことが国内外で検証され、発表されている。しかし、抗酸化作用が強いため、水溶液の中では溶存酸素と結合し容易に酸化してしまうため安定化させることが難しい。また、安定化のために化学物質を使用して誘導体化するのが一般的で、体内に取り入れることが難しかった。

HPGは特殊加工により、このEGCgを水溶液中で高濃度のまま安定化することに成功、昨年8月に特許出願申請を行っている。

同技術で開発された高濃度安定化カテキンEGCgの作用機序や抗ウイルス効果について、九州保健福祉大学副学長・薬学部長の黒川昌彦教授を中心とした研究チームなどが検証を行ってきた。

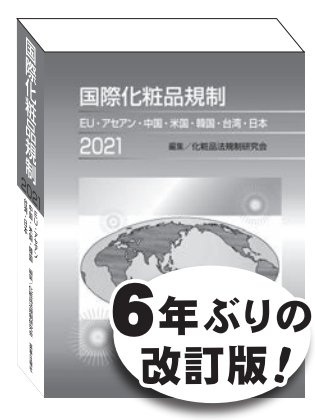
In vitroにおいて4種のA型、B型のインフルエンザウイルス株に対して、MDCK（Madin-Darby canine kidney）細胞を用いたプラーク減少法を行うことで、EGCgの抗インフルエンザウイルス効果を検討した結果、4種のインフルエンザウイルスに対して、ウイルス粒子の細胞への吸着あるいは侵入過程をEGCgが阻害することが確認できたという。

このほか、新型コロナウイルス（HCoV-229E）についても、EGCgは直接不活化効果と吸着阻害効果の二つの作用により、感染性を減少させることが明らかとなった。また、そのEC$_{50}$は約0・5～2ppmであり、非常に低濃度で抗ウイルス効果を示すことが示唆されたという。

検証を行った黒川氏は「EGCg水溶液は、インフルエンザウイルスの宿主細胞への吸着・侵入を阻害して抗インフルエンザウイルス作用を示す。この場合、EGCgとウイルス粒子との直接コンタクトが重要である。また、コロナウイルスの不活化に対しても有効性を示した。同水溶液の構成成分は、すべて厚生労働省が許認可する食品添加成分であるため、体内での副反応のリスクがない。子供から高齢者まで安心して口腔ケアなどによる服用も可能。アルコールとは異なり、手が荒れない手指消毒液、安全なウイルス除去の掃除液としても活用が可能」などと、今後の可能性に期待を示した。

HPGの金山正則社長は「最も強調したい点は、安心・安全であるという点。医療従事者、高齢者および高齢者施設、幼稚園・保育園など幅広い場面で役に立てればと思う。さらに人だけでなく、養鶏場・養豚場など家畜のインフルエンザ予防対策として、足マットやスプレー状にした成分を飼育場の床や上部から散布するなどの感染予防対策にも活用が可能。時間が経過しても残存率が72％と大半が劣化せず、1万ppmと高濃度で安定化しているため希釈が容易で、無味・無臭、無色・透明なので汎用性に優れ、飲料も含めた様々な分野の製品への展開を模索していきたい」とする。

安定化高濃度カテキンEGCgを用いた口腔用スプレーやタブレットなどの製品化が期待される（いずれも試作品）

各国の化粧品規制について最新の内容にアップデート！
国際化粧品規制2021
EU・アセアン・中国
米国・韓国・台湾・日本
2015年以降の各国の化粧品許認可制度の概要と、法令で規制される配合禁止成分・制限成分、配合可能な色素・防腐剤紫外線吸収剤・染毛剤成分などを「成分編」と「規制編」の二部構成で詳述。
本書発行後の動きについては、薬事日報社ウェブサイトやオンラインショップに随時掲載を予定。


薬事日報社　書籍の詳細・ご注文はURLまたはQRコードからオンラインショップへ ⇒ https://yakuji-shop.jp/